

文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

春日部市立幸松小学校 書写教育の取組

春日部市立幸松小学校

教諭 小林 綾子

1 はじめに

本校は、埼玉県春日部市にあり、来年度、開校150年目をむかえる長い歴史を持つ伝統校です。学区は、緑豊かな自然が多くあり、国道4号線と16号線が通る交通の要衝にあります。春日部市の指定無形民俗文化財である「不動院野の神楽」をはじめとして、伝統文化を大切にしている地域でもあります。学校では地域とのつながりを深めるための取組も多数行っています。児童数は494名18学級あり、「元気、笑顔、夢がいっぱい、未来へ挑戦する 幸松っ子」の教育計画のもと、教職員と児童が一体となって教育活動に取り組んでいます。

2 書写教育の具体的な取組

(1) 硬筆・書きぞめ競書会、展覧会

毎年5月に「硬筆競書会」12月に「書きぞめ競書会」を行っています。硬筆競書会は、1～6年生までが硬筆を行います。書きぞめ競書会は、1・2年生は教室でペンを用いて文字を書き、3～6年生までは「だるま筆」を用いて体育館で毛筆に取り組めます。それぞれ、1か月程度練習期間を設け、本番の競書会に臨みます。全児童の作品を各クラスの廊下に掲示し、選ばれた作品には金賞がつけます。どの子どもたちも、より丁寧に、より上手に書こうと一生懸命に練習に取り組んでいます。そして、この取組によって、文字を書くことへの関心も高まり、大きく成長する子どもたちの姿をたくさん見ることができます。競書会後には、校内展覧会を開き、保護者の方に見てもらう機会を設けています。練習期間は、お子さんと一緒に熱心に硬筆や書きぞめに取り組んでくださるご家庭もあり、展覧会にはたくさんの保護者の方に来校いただいています。学校だけで書写教育を行うのではなく、定期的に書写の取組をお知らせすることで家庭との連携を図り、書写教育に関心を持ってもらうことも大切な取組の一つであると考えます。



【校内書きぞめ展】

また、埼玉県内の取組として、硬筆と書きぞめの展覧会を県下で一斉に行っています。小学生から高校生までの作品が「埼玉県硬筆中央展覧会」や「埼玉県書きぞめ中央展覧会」で展示されます。校内展覧会において代表に選ばれた作品は、市内展覧会において審査され、さらに埼玉県中央展覧会へと進みます。校内展覧会、市内展覧会、埼玉県中央展覧会での表彰を目標に、学校全体で書写教育に取り組んでいます。



【校内硬筆展】

(2) 年間を通した日々の取組

年間を通して、計画的・継続的な取組を行っています。年度初めには、低学年を中心に鉛筆の持ち方や姿勢、文字のとめ・はね・はらい、文字を書くときに集中して取り組むことなどの指導を行い、5月には硬筆指導、7月に書画展出品のための練習、夏休みに書写の課題の応募、9月に書画展に出品、12月に書きぞめ指導というように、年間通して書写教育に取り組んでいます。

(3) 書画展への参加

本校は、これまでも毎年、書画展への出品を行っています。出品した一人ひとりの作品に賞が付き、全員に賞状をいただけることを、子どもたちも喜び嬉しく思っています。また、書画展への参加が、子どもたち一人ひとりの書写学習に対してのモチベーションアップにもつながっていると感じます。

3 おわりに

今回、文部科学大臣賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。この受賞は、学校としての取組だけでなく、保護者・地域の方のご協力があったからこそだと感じています。また、書画展という発表の場において、本校の子どもたちの日々の学習の成果を、表彰いただけたことに感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、子どもたちと共に、さらに書写教育の充実を図っていきたいと思います。

文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

廿日市市立廿日市中学校の取り組み

廿日市市立廿日市中学校

1. はじめに

本校は、広島県西部に位置する廿日市内の中でも一番規模の大きい学校です。同じ市内には世界遺産で有名な厳島神社もあり、豊かな瀬戸内海に面した学校もあります。また、本校では、「正直に生活し、進んで学び、人に害せず、自己を守り、人と社会のために奉仕する」という校訓のもと、本校で学んだことを誇りに持ち、高い志のもと、「自立した社会人」として活躍できる生徒を育成することを目標に日々の教育活動に励んでいます。

2. 書写教育での取り組み

(1) 第1学年

第1学年では、小学校までの取組をおさらいしながら、点画が明確な楷書の特徴を意識し書くよう指導します。指導の際、水黒板やインターネットでお手本の書き方が視覚的に理解できるよう工夫します。また、お手本に補助線を入れさせて字形の整え方を何度か意識させるようにします。今回は特にタブレット端末の有効活用が可能であることが分かったので、今後積極的に指導に取り入れたいと考えています。



(2) 第2学年

第2学年では、課題ごとに筆遣いや全体のバランスのとり方を意識させ、授業では毎回、練習・清書の流れで1時間を構成しています。一つの課題についてポイントを絞って指導することで、その時間のねらいを達成することを目指します。また、生徒の作品は学期末に掲示し、生徒同士や保護者からの評価につなげています。

(3) 第3学年

第3学年では、これまで1・2年生で習ってきた基礎を基に、行書の特徴や作品全体のバランスを意識して書かせることに主眼をおいて指導します。例えば、新しい課題に向き合う時には、まず、文字のどこに特徴が出ているのかを確認し、手本に書き込みをさせます。また、1時間目はそれぞれの文字の特徴を生かして書くこと、2時間目は全体のバランスを意識して書くことに重点を置き、1つの課題につき、2時間の構成で授業を行います。出来上がった作品は校内に掲示するとともに、1年間同じ台紙に貼り続け、年度末に子供たちに返却し、1年間の成果を実感できるようにしていきます。

3. おわりに

この度は、文部科学大臣賞をいただき、大変光栄に思います。毎年、全校生徒が貴展覧会に出品するようになって早5年。全員に審査結果をいただけること、優秀作品出品者には賞状だけでなく掛け軸などの記念作品がいただけることが生徒の学習の励みになっています。お世話いただきました関係者の方々に心よりお礼を申し上げます。